

2025 年 5 月 1 日

学校関係者評価報告書

(2024 年度)

群馬パース大学福祉専門学校
(学校関係者評価委員会)

※この報告書は、「自己評価報告書」に学校関係者評価委員会の評価を追記してまとめたものである。

目 次

I	学校の現況	2
II	評価の基本方針	7
III	重点目標	8
IV	評価項目の達成及び取組状況	12
(1)	教育理念・目標	12
(2)	学校運営	13
(3)	教育活動	15
(4)	学修成果	17
(5)	学生支援	19
(6)	教育環境	20
(7)	学生の受入募集	21
(8)	財務	24
(9)	法令等の遵守	25
(10)	社会貢献・地域貢献	26
(11)	国際交流	27
資料 1		29
資料 2		30
資料 3		31

I 学校の現況 (2024 年 4 月 1 日現在)

1 施設の概要

- (1) 名 称 群馬パース大学福祉専門学校
- (2) 所在地 〒377-0008 群馬県渋川市渋川 1338-4
- (3) 設置者 名 称 学校法人群馬パース大学
代表者 理事長 樋口 建介
開設日 1992 年 4 月 1 日
- (4) 教職員数 校長以下 16 人
- (5) 開設学科 2 学科
- ・ 介護福祉学科 2 年制 定員 50 人(1 学年)
 - ・ 保育学科 2 年制 定員 50 人(1 学年)
- (6) 在籍学生数(2024 年 4 月 1 日現在)

	1 年	2 年	合計
介護福祉学科	53	30	83
保育学科		19	19
合計	53	49	102

- (7) 沿 革
- ・ 1992 年 3 月 ほたか保健福祉専門学校設置認可(群馬県)
 - ・ 2007 年 4 月 群馬パース福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2010 年 4 月 キャンパスを群馬県吾妻郡高山村に移転
 - ・ 2014 年 4 月 群馬パース大学福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2017 年 4 月 キャンパスを群馬県渋川市渋川に移転

2 建学の精神

Paz は、平和を意味するポルトガル語、パース(Paz)に由来する。

また、同時にPazにはこの 3 文字を頭文字とする「Pessoa(個性～個人の尊厳と自己実現)」「Assistencia(互助～多様な人々の共存と協調)」「Zelo(熱意～知の創造)」の意味が与えられている。

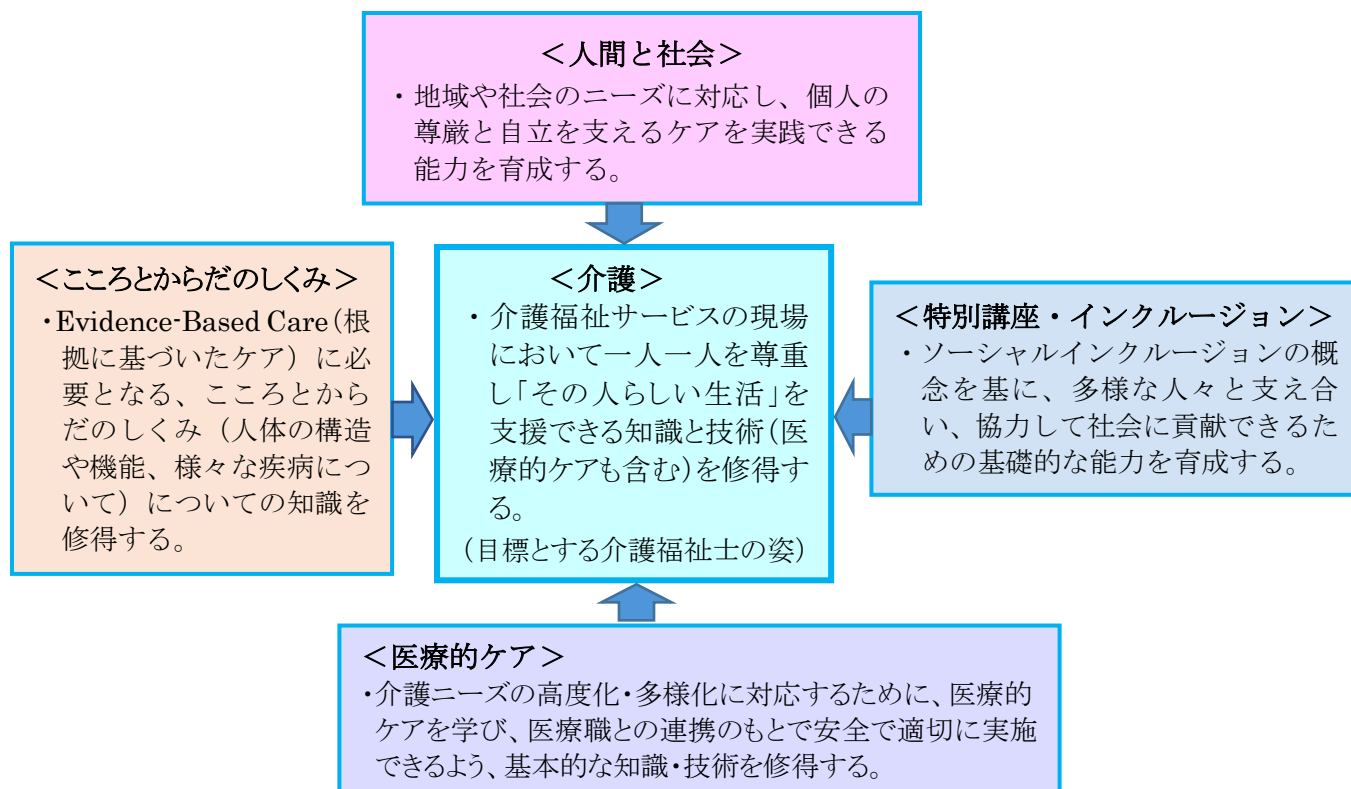
3 教育理念

「人間愛と人間尊重」を基盤にした豊かな人間性を養い、「生命への尊厳」に支えられた介護、保育の専門的知識や技能を身に付け、広く社会に貢献できる人材を育成する。

4 教育目標

【介護福祉学科】

- 介護福祉学科のカリキュラムは 5 つの分野から成り立ちそれぞれ教育目標を定めている。5 つの分野が独立しているのではなく、介護の分野が軸となり、他の 4 つの分野が補っている。



【保育学科】

- 子どもの思いに寄り添う感性を養い、個々の子どもの育ちを支える知識や技能を修得する。
- 一人一人の子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健の基本的な知識の修得と実践力を養う。
- 地域社会や家庭とよりよい関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。
- コミュニケーション力を高め協働する力を養う。

5 教育方針

各学科 3 つのポリシーで示す。

【介護福祉学科】

《アドミッションポリシー》

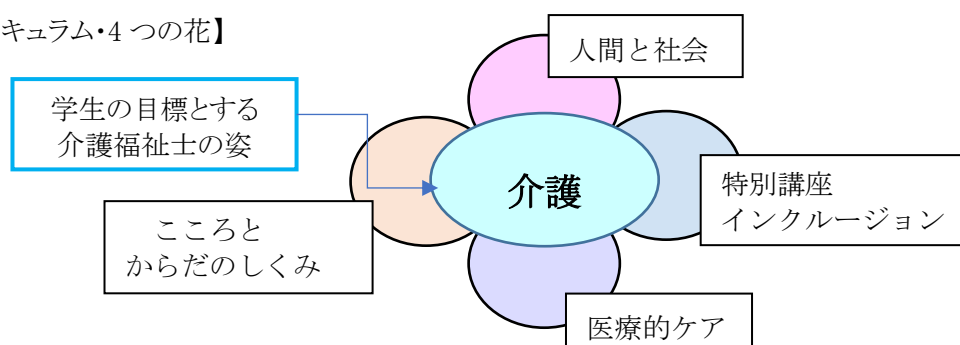
- 介護に関心を持ち、思いやりの心を持って相手を尊重することができる人
- 社会における介護の必要性を理解し、社会貢献・奉仕の心を持てる人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー (学生の目標とする介護福祉士の姿)達成に向けて

(1)「介護」のねらいは、カリキュラムの 4 つの分野「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」「特別講座・インクルージョン」と連携し知識や技術を修得することで達成できる。各分野の教員が連携して指導に当たる。

【カリキュラム・4つの花】



(2) 実習経験を積み重ねることで実践力を身に付けていけるように段階を追って目標を定め指導する。

* 介護福祉学科 カリキュラムマップ 資料1 参照

《ディプロマポリシー》

- 高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できる知識と技術を身に付けている。
- 介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

【保育学科】

《アドミッションポリシー》

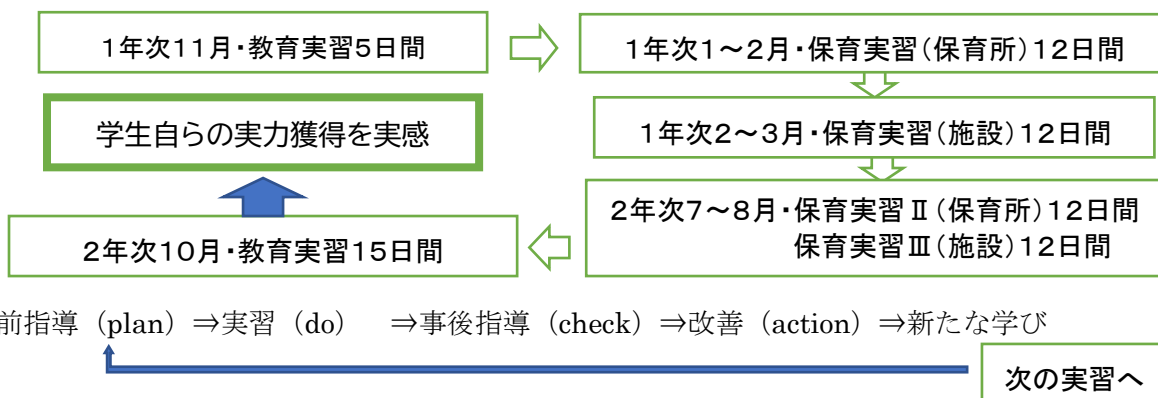
- 保育や幼児教育に関心を持ち、深い愛情を持って、子どもとコミュニケーションがとれる人
- 子どもの命を預かる責任感を持って、常に注意深く子どもを見られる人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー達成に向けて

(1) 教育実習・保育実習を経てアクティブラーニング型授業での学習展開（『 』は、科目名）

- ① 2年間で5回の実習を経て段階を追って学びが深まり実力が付くように、実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をする。
- ② 実習においては、全ての学習の学びが関連しているが、特に、『保育実習指導』を基本に『保育実践演習』『保育キャリアデザイン』『特別講座』とも連携して実習の事前・事後指導を行う。
- ③ 実習ごとにPDCAサイクルで学ぶ。(次ページ)



- ④ 実習前後の指導を全体指導と巡回指導担当教員による個別指導を組み合わせ、個々の学生の能力に応じた指導をする。

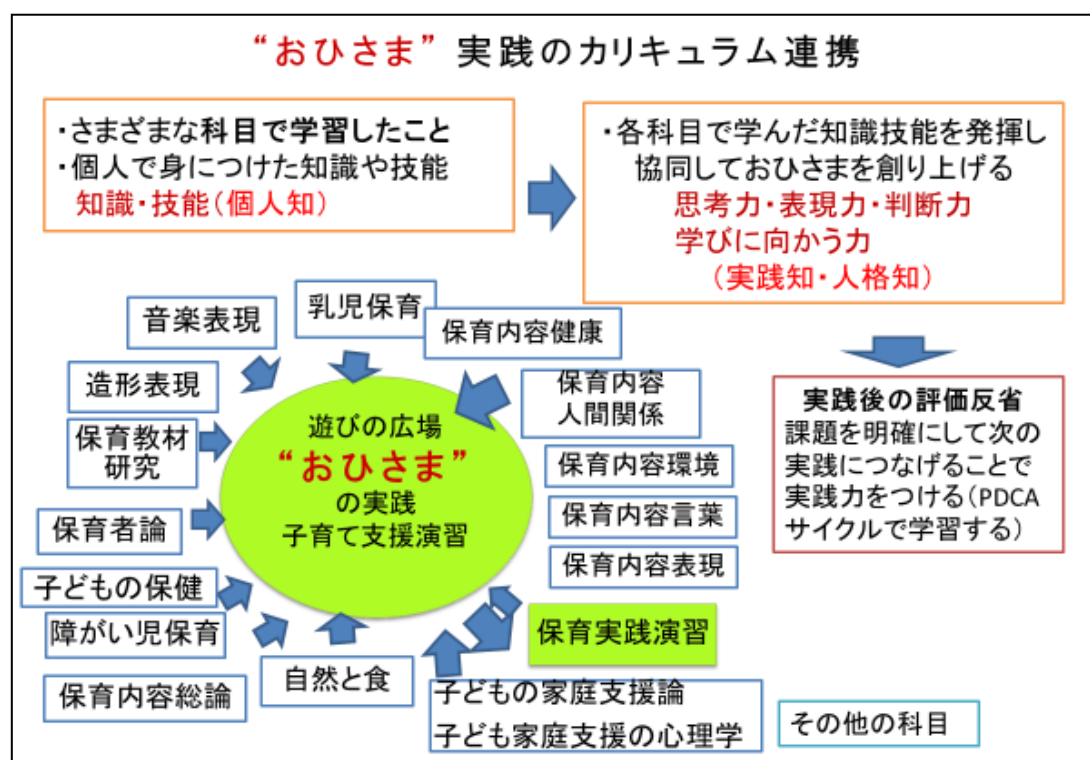
* 保育学科カリキュラムマップ 資料2 参照

(2) 『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』で取り組む「おひさま」を中心とした学習展開

隣接する渋川市子育て支援総合センターと連携して、子育て支援事業・遊びの広場「おひさま」(以下、「おひさま」)を実践する中で、子どもとの関わり方や読み聞かせ、手遊び・歌・劇の実演方法などの学習や、子どもの育ちを見取った上での環境の構成や援助について学ぶと共に、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。そのため、『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』と連携した学習展開をすることを基本に、その他の科目での学習とそこで身に付けた知識や技能を発揮し協働して「おひさま」を創り上げる体験をする。

学生の習熟度に応じて学習が進められるように、『保育実践演習』と連携し、学生個人が PDCA サイクルで学び、実践力修得を確実なものにしていく。

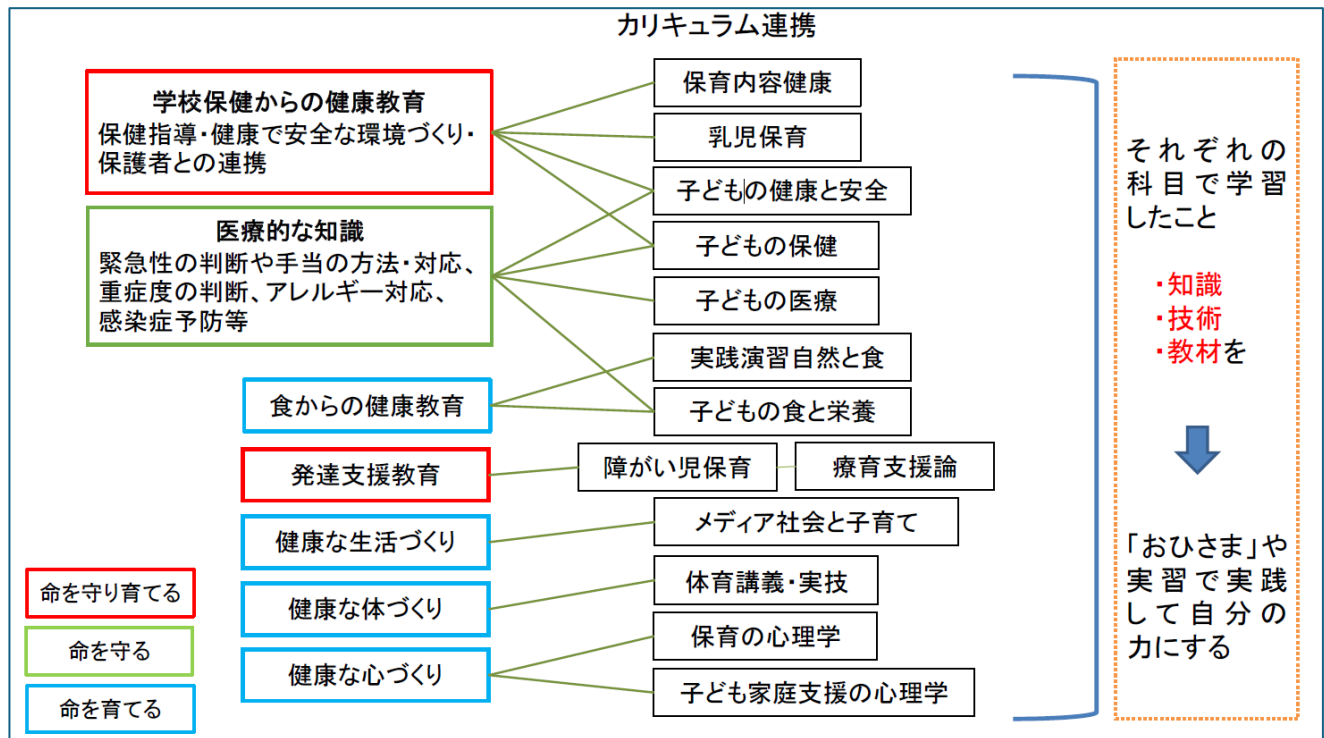
そこで、下図のようなカリキュラム連携で、学生が主体的に学び実践力の向上が実感できるような学習展開にする。



(3) 医療的な知識と学校保健活動の専門的な知識を学ぶためのカリキュラム連携

「子どもの命を守り育てる保育者を養成する」という目標のもとに、「命を守る」視点と「命を育てる」視点で、下図に示す科目の中で授業内容の検討と連携を試み、目標達成に向けての学習展開を考察していく。

なお、学生の実践の場としては、保育・教育実習、「おひさま」で、保健指導の実践(自作の教材・絵本や紙芝居などを使っての健康指導・食育)、身体諸機能の発達促進や安全感覚を養う運動遊びなどの実践をする。



《ディプロマポリシー》

- 子どもの生きる力を育むために、さまざまな子どもの思いに慈しみをもち寄り添い、個々の育ちを支える知識や技能を身に付けている。
- 一人一人の子どもの命を尊び、守り育てるために、医療的な知識及び保健活動の専門性を有している。
- 地域社会や家庭とより良い関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

Ⅱ 評価の基本方針

群馬パース大学福祉専門学校は、「人間愛と人間尊重」「生命への尊厳」を基盤に専門的な知識・技能を修得し、介護や保育の現場で活躍できる福祉・保育のスペシャリストの養成を目指している。

また、自らの教育活動や学校運営について、自己点検評価を実施し情報公開すると共に、学校関係者評価委員の協力を得て教育活動のさらなる充実を目指している。

1 対象期間

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

2 実施方法

(1) 実施組織 教育活動推進担当（自己点検評価委員会）

○総 括 都丸 校長

○担当者 都丸(校長)、木村(校長補佐)、古川(介護福祉学科教務主任)、深澤(介護福祉学科教員)、塩澤(保育学科教務主任)、井上(保育学科教員)、谷畑(事務主任)、廣橋(事務主任)

(2) 評価基準

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠する。

(3) 評価方法

教育活動推進担当者会議を開催し、昨年度からの課題を引き継ぎ、各学科・事務局・各分掌担当が自己点検評価を実施し取りまとめる。

3 評価項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4 項目に対する評価

(1) 4 段階で評価する。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 各評価項目で、特記すべき取り組み状況や課題・対策などを記載する。

Ⅲ 重点目標

【介護福祉学科重点目標】

(1)高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できるような知識と技術を持つ介護者を養成する。

(2)介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を有する介護者を養成する。

重点目標を効果的に身に付けることができるように、カリキュラム検討と教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようなカリキュラム構成をする。(資料1 参照)

1 重点目標(1)について

《現状》

『介護過程』や『生活支援技術演習』の学習を通じて、利用者一人一人の生活課題を考え、必要な支援を学んでいる。2 年次の介護実習では担当利用者を持ち、その方の生活課題は何か、必要な支援は何かという個別ケアと自立支援の観点から実習を展開している。

《成果と課題》

1 年生は、学んだ知識を統合して利用者一人一人の生活課題を考え、必要な支援とは何かを導き出せている。また、技術面では、尊厳と自立支援の観点から介助方法を学ぶことができ、利用者一人一人に合わせた支援の必要性を理解できた。

2 年生は、施設利用者の生活歴や疾患、本人の気持ちを情報収集し、生活課題は何かという介護を展開する思考過程を身に付け、ケアを行うための根拠を述べる能够做到ている。

今後も「その人らしさ＝個性」を考えた介護を展開できるように、講義・演習の中でより具体的な事例を通じて個別ケアを理解しやすい授業を展開する必要がある。

2 重点目標(2)について

《現状》

卒業に必要な医療的ケアの時間数は 50 時間である。本校はその 3 倍以上の 165 時間行っている。内容は医療的ケアに関する知識・技術のほかに、バイタルサインの測定方法や幅広い医療的知識・技術が修得できるようなカリキュラムになっている。

《成果と課題》

医療的ケア実習(実地研修)について、本校で定めている基準を満たした希望者 17 名(年度末在籍 2 年生 30 名中)が修了することができた。

【保育学科重点目標】

(1)子どもの生きる力を育むために、子どもの思いに寄り添い育ちを支える力を持つ保育者を養成する。

(2)子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健活動の専門性を有する保育者を養成する。

2 年間という限られた修学期限の中で、上記のような重点目標を効果的に身に付けることができるようにするた

めに、カリキュラムを検討し教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようにする。

そこで、昨年に引き続き今年度においても目標達成に向けて次のような方策で取り組む。

1 重点目標(1)について

① 教育実習・保育実習の学習展開の工夫

《現状》

- a 講義・演習・実習の学習サイクルで実践力を身に付けるために、2 年間・5 回の教育・保育実習を有効にするカリキュラム連携や各教員の指導内容を工夫すると共に、実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をしている。
- b 本年度は2年生のみの在籍となった。「保育士コース」(6名)と「保育士・幼稚園教諭コース」(12名)の全員の学生が、保育士資格取得のため、7月下旬から12日間、保育実習Ⅱ・Ⅲに臨んだ。加えて「保育士・幼稚園コース」の12名の学生は、10月に15日間の教育実習に臨んだ。2つのコースが一緒に学ぶということで、それぞれの経験の差に配慮しながら授業を展開したり就職支援を行ったりした。しかし、保育士コースの一部の学生で自分は教育実習に行っていないという引け目や不安を感じているような姿も見られた。また、各フェーズの学びを積み重ね次の実習に生かす取り組みを行っているため、授業内で自分が経験していない実習の話題が出ると「自分には関係ない」と抵抗を示す場面もあった。担当教員だけでなく学科の教員がそれぞれの授業で学びのつながりを説明したり授業に生かしたりすることで授業やその他の活動に意欲的に参加する学生が増えてきた。就職に向けては自信をもって着任できるよう個別に指導する時間を設けた。
- c 本年度は、すべての実習先で COVID-19 感染流行前の対応に戻った状況で、学生が実習を行うことができた。

《成果》

- a 学生が保育や施設の現場で実際に実習することを通して様々な経験をして、保育者となる学びを積み、一回りも二回りも成長する姿が見られた。学生は、授業で学んだことや作成した教材を活用して実習に臨んでいた。講義・演習・実習を PDCA サイクルで組み合わせることで実習指導を展開することの成果が明確に表れていた。
- b 保育実習Ⅱ・Ⅲ後に、実習の成果を報告書とポスターにまとめ、それをもとに9月に「実習報告会」を行った。例年は1年生への発表を行っていたが、今年度は後輩がおらず2年生のみだったため、学生を発表者と聴衆の2班に分けて、役割を交代する形で実施した。活発なプレゼンテーションや意見交換が行われ、学生同士の貴重な学びの場となった。

《課題》

- a 「保育士コース」、「保育士・幼稚園教諭コース」を創設して初めて2年次を迎えた学生だったが、保育士コースの学生6名に関しては、7月ですべての実習が終了となった。それらの学生に関しては、「保育士・幼稚園コース」と比較した場合、学びの深さに物足りなさを感じることや子どもの前に立つことや指導計画の作成等に関して経験値の少なさを痛感させられる場面があった。学生においても経験値の少なさからくる不安は大きい。就活に向けて、個別に助言や指導などの丁寧な関わりを行う必要性を感じる。特に2年の後期に、それまでの学びの

集大成として 15 日間の教育実習を経験することが果たす意義が明確になった印象がある。

- b 保育実習生としてのマナーや態度について、“報告・連絡・相談”に課題の残る学生もいた。この課題については、実習だけでなく学校生活のあらゆる場面で意識して育てていく必要があるといえる。

②『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』で取り組む「おひさま」を中心とした学習展開

「現状」

渋川市と連携して開催している遊びの広場「おひさま」は、感染防止のためのマスク着用の制限もなくなり、開催時間は引き続き 60 分としたものの COVID-19 の感染拡大以前に近い状況で実施することができ、毎回 15～20 組前後の親子が参加した。

企画を担う 2 年生の登校は週 3 日のみとなったため、劇や保健活動で使用する教材や仕掛けを利用して、遊びの場を創作するように工夫を促した。

また、運営に携わる学生も 2 年生のみとなったため、遊びの広場「おひさま」を実習と並ぶ実践の場と位置付け、1 年次の保育実習Ⅰ（保育所）で明らかになった課題を克服できるように指導したり、保育所保育指針や保育所における自己評価ガイドラインを示しながら保育者としての姿勢や行動についても確認したりして進めることができた。

「成果」

- a 過年度は 1 年生に向けて当日の流れや動きを説明する必要があったが、その時間を使って子どもや親子が安心して遊び出せる物的環境・人的環境・空間的環境・環境の再構成について、みんなで話し合いながら進めていくことができたため、学生自身が実践力の獲得を実感できた。
- b 劇や保健活動で使用した仕掛けを発展させた遊びを提供したため、子どもたちが夢中で遊ぶ様子が見られ、保育をつながりをもって展開させていくことの大切さが実感できた。
- c 5 月・7 月の遊びの広場「おひさま」の後、学生は保育実習Ⅱ・Ⅲと教育実習を経て、11 月の遊びの広場「おひさま」が開催された。ここでは、子どもとのかかわり方や環境構成の工夫に成長が見られ、学生の実習での学びの成果を再確認することができた。
- d 保健活動の展開を考えることで幼児に対する言葉遣いや説明の仕方を工夫するとともに、一斉活動の導入・展開における実践力が身に付いた。
- e 実践の振り返りを通して、親子が共に遊ぶ場面の重要性に気がつく学生が出てきて、子育て支援の役割やその在り方についてクラス全体で学ぶことができた。

「課題」

- a 現在、特別な課題等はない。

2 重点目標(2)について

「現状」

2021 年に医療的ケア児支援法が制定されて 3 年が経過した。今後、医療的ケア児の保育所等での受け入れが広がり、専門的な医療の知識を持った保育者が求められる時代になっていくことが予想される。

そのため、本校では、看護系やリハビリテーション系の専門教員の指導のもと、関連科目が連携し（「カリキュラムポリシー」参照）小児医療の専門的な知識を修得し保健指導が実践できる保育者養成に努めている。

《成果》

- a 遊びの広場「おひさま」の実践では必ず保健指導のプログラムを入れ、本年度は、子どもが真似できるような歌や動作等を取り入れた指導用教材を作成し実践した。そのことが学生同士の学び合いになり、保育現場での実践につながる内容となった。
- b 『保育・教職実践演習』では、例年群馬大学共同教育学部附属幼稚園の養護教諭を外部講師として迎え、保健指導の実際、様々な教材を使った子どもへの指導方法、子どもに伝わる話し方、緊急時やケガ発生時の保護者への対応などを学んでいる。その学びを遊びの広場「おひさま」での保健指導に活かす様子もうかがえた。
- c 「実践演習こどもの医療Ⅰ」では、医療保育士や看護師の資格を有する教員や、日赤の職員、群馬パース大学の理学療法士資格を有する教員や本校介護福祉学科の看護師資格を有する教員から、小児保健、小児のリハビリテーション、医療的ケアについて学ぶことで、学生の医療や療育支援への知識・関心を高めることができた。

《課題》

- a 現在、特別な課題等はない。

IV 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1					
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)		④	3	2	1	
学校における職業教育の特色は何か		④	3	2	1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか		④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか		4	③	2	1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか		④	3	2	1	

① 現状

- a 本校の教育理念、教育目標、教育方針、各学科における職業訓練の特色については、オープンキャンパスや高校訪問、ホームページの掲載等、広く周知に努めた。
- b 本校学生に対しても、入学後のオリエンテーションや授業の中で学校の理念・目標、育成人材像などについて触れ、それに則った教育活動を行っている。
- c 卒業生が就職した介護施設等へ、本校の教育や卒業生についてのアンケートを行った。

② 課題と改善方策

- a 積極的に学校に関わってくださる保護者等の方には、本校の理念・目標・育成人材像など学校に関する様々なことを説明する機会があるが、今後も多くの保護者等の方に理解していただけるよう、さらに情報提供を行いたい。
- b 今後も関係業界の方からご意見等をうかがい、人材育成に努めたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・教育理念には、建学の精神がしっかり根付いていることがよく理解できた。
- ・教育理念や目標を学生や全ての保護者に周知徹底することはなかなか難しい。自己評価は「ほぼ適正」となっているが、現状からすると概ね「良」ととらえてもよいのではないかと。今後も多様な機会を通じて本校の教育の周知の強化に粘り強く努められたい。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 本年度は、教職員の協力の下、中長期目標・中長期計画(10年間)を作成し、運用を開始した。現在行っている自己評価の内容を取り入れ、さらに計画を具体化したもので、こちらの計画についても毎年実施状況を振り返り、見直しを行う。
- b BCP(自然災害発生時における業務継続計画)を作成し、運用を開始した。
- c 毎年4月に行っている「校務分掌」(いわゆる事務分担表)の見直しについて、留学生の大幅な増加により、留学生に関わる学生指導や事務対応の内容や分担を明確にし、協力体制の下学校運営に当たる体制を再構築した。
- d 就職や実習、奨学金の保証人等についてお世話になる関連施設の方々と良い関係を構築し、日頃から連携を図っており、特に留学生の保証人をお願いできる施設を増やせるよう働きかけを行った。
- e 本年度末で保育学科を廃止するため、県に書類を提出、私学審議会等の審議を経て、正式に決定した。

② 課題と改善方策

- a 日本人の学生募集については、引き続き厳しい状況にあるが、留学生については、県内外からの応募があり、今年度は引き続き順調に推移している。今後も留学生対応については、校内で役割を分担し情報共有を行うと共に、全職員の協力体制で進めていくことが必要である。
- b ただし、来年度以降の学生募集については、国の制度変更により入学を希望する者が減少する可能性もあり、慎重に対応策を考え計画していく必要がある。また、保証人施設についてもさらに増やしていく必要がある。

- c BCPで計画をした防災に関する設備・備蓄品については、まだ十分に整っていない。今後、計画的に設置、購入をする必要がある。(ローリングストック)
- d 今後、介護福祉学科のみとなるため、施設・備品の使い方等について、学内、大学、渋川市と協議の上対応していく。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・本年度は教職員の協力の下、中長期計画やBCP(自然災害発生時における業務継続計画)を作成し、運用を始めたとのこと。計画に沿った運営が必須であり、ハード及びソフトの面の危機管理を十分行っていくことが望まれる。
- ・次年度以降、国の制度変更により入学希望者減少の可能性もあり、その対応策をどうするか。喫緊の課題として取り組んでいただきたい。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	

① 現状

- 看護、介護、保育、教育等の現場で活躍している人材や群馬パース大学の教員を講師として招聘し、知識や技術等の修得に力を入れている。
- 学生による授業評価(授業評価アンケート)の結果を踏まえて、講師は授業改善を行っている。
- 進級・卒業判定については、学生便覧やシラバスに示され、進級・卒業の判定会議が開かれ、適切に対応している。

- d 本年度も関連分野からの講師依頼を積極的に引き受けたり、学外の研修に積極的に参加したりしてきた。講師を招聘しての職員の研修については、群馬県総合教育センターのカリキュラムセンターより講師を招き、「時代に即した指導の方法」をテーマに学生への対応の仕方と留意点について学んだ。
- e カリキュラム及び教育方法の改善に活かすことを目的に、介護福祉学科卒業生の就職先施設へアンケート調査を行った。アンケートでは、施設が卒業生に求める資質・能力について意見を求めた。
- f 本年度の本校の「介護福祉士国家試験」合格率は、80%（全国平均 78.3%、養成校合格率 66.7%）の実績を残すことができた。また合格率の内訳は、日本人学生 88.2%、留学生 33.3%であった。

【介護福祉学科】

- a 実技の授業では、PAZ グループの連携強化の一環として、グループ内の介護職員の方が学生に実技指導を行った。学内での演習、学外での実習を通じて本校では、グループ内の病院や介護施設等との連携による「現場と密着した介護教育」、「即戦力教育」の実践に努めている。
- b 近年、医療依存度の高い人、医療的ケアが必要な人が増えている。こうしたことを踏まえ、医療的ケアの実地研修等の充実を図り、「特定行為業務従事者」認定証の取得を目指している。
- c 本校独自の取り組みとして、厚生労働省基準の 50 時間を約 3 倍上回る時間を確保して、医療的ケア授業の充実に努めている。
- d 現在、介護現場における ICT や介護ロボットの活用が重視されている。今年度初めて外部企業に依頼し、最新技術の講義を実施した。また、近隣介護施設からの見学者を受け入れ、学生だけでなく地域施設にも、これからの介護の在り方について情報を伝えることができた。

【保育学科】

- a 昨年度「保育士コース」及び「保育士・幼稚園教諭コース」の2つのコースを設置した。その学生が2年次に進級して、はじめての年度となった。「保育士・幼稚園教諭コース」は保育士資格に加え、小田原短期大学との教育連携により幼稚園教諭免許を取得するため、より多くの単位を取得する。さらに保育実習の他に教育実習の体験も加わることで、子どもとの関わりの経験値も多くなっている。本校の授業は、両コースの学生が一緒に受講しているためコース間に学びの違いが生じてしまう傾向があり、そういったことを十分に配慮しながら教育活動を展開した。
- b 保育実習・教育実習後、各実習先の実習評価が基準点に満たない学生については、実習担当教員が補完を行った。面談と個々の学生に応じた課題を設定し、特別学習計画を組み、資格取得に向け基準点に達するまで指導している。

② 課題と改善方策

- a FD については、昨年度の課題として挙げていた OJT の実施に至らなかったため、今後 OJT に対する意識を高める必要がある。
- b 介護福祉学科卒業生の就職先施設へのアンケート結果をもとにカリキュラム及び教育方法を検討し、改善を行う。
- c 来年度からは、本校教員が最新技術の講義を実施することになっているため、環境を整え継続して実施することが課題である。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・学生による授業評価(授業評価アンケート)を継続して行っていることは評価できる。その結果を教育方法の改善やカリキュラムの改定につなげられるよう一層の連携を図ってほしい。
- ・介護福祉士国家試験の合格率が 80%に及び全国平均を上回る実績を上げている。引き続き国家試験対策に尽力されたい。2026 年度の入学生より、介護福祉士資格取得の制度が変更されるという点から、教授方法、国家試験対策を改善する必要があると思われる。特に留学生が日本語能力を高められるよう指導強化に尽力してほしい。
- ・学習や現場での ICT の活用が必須であり、本校では既に授業等に取り入れていることは評価できる。現場の実態を把握したうえで、現場との連携を図りながら活用することが重要である。しかし、ICT のみに頼るのではなく、基本的な事項をしっかりと身に付ける教育にも重点的に取り組んでいただきたい。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 2025 年 3 月、介護福祉学科、保育学科及び介護福祉専攻科の卒業生については、就職を希望する学生全員が内定している。
- b 2024 年度の退学・除籍者は、2 人(介護福祉学科 1 年 1 人・2 年 0 人、保育学科 2 年生 1 人)であった。
- 参考:2023 年度 4 人(介護福祉学科 1 年 2 人・2 年 0 人、保育学科 1 年 2 人・2 年 0 人、
介護福祉専攻科 0 人)
- 2022 年度 7 人(介護福祉学科 1 年 5 人・2 年 1 人、保育学科 1 年 3 人・2 年 0 人、
介護福祉専攻科 0 人)
- 2021 年度 4 人(介護福祉学科 1 年 2 人・2 年 1 人、保育学科 1 年 0 人・2 年 1 人、
介護福祉専攻科 0 人)

【介護福祉学科】

- a 国家試験対策として模擬試験(学内・全国模試)を実施するなど、学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。(3)教育活動参照)
- b 留学生等への学習及び生活の支援を細やかに行った結果、退学率は少数を保っている。

【保育学科】

- a 毎年、群馬県幼保認可委員会が主催している合同就職説明会に加え、本年度は、渋川市が就職説明会を開催するなど市町村単位での就職説明会が増えたため、多くの学生が就職説明会に参加し、様々な園と話をすることができた。また、見学後の体験ボランティアに複数回参加する学生も多く、自分の将来をしっかりと見据えて活動することができていた。
- b 例年、卒業生支援の一環として、新卒者の就職先を訪問する「採用御礼」を行っている。卒業生と学校とのつながりを保つことで、多くの卒業生が相談や報告に学校を訪れ、卒業生への丁寧な支援に繋がっている。
- c 前出の「採用御礼」で得た情報は、在校生への実習指導及び就職活動の支援に反映させている。
- d 保育学科の退学者1名については、将来に対する方向性の違いによるもので、前向きな退学であった。

② 課題と改善方策

- a 以前より就職活動においては、社会的に介護福祉士・保育士が不足している状況にあるため、就職希望者に対する最終的な就職率は 100%である。今年度は、早期より就職活動を支援してきたが、最終的に就職希望者の就職が決定するまでに例年並みの期日を要した。次年度は早期から就職活動を開始するよう促すと共に学生の資質や特性等を把握し、学生に寄り添った支援をしていく必要がある。
- b 退学率は低減している状況であるが、学生が学びを継続できるようさらに引き続き、学習及び生活に関する指導が必要である。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・今年度で保育学科が廃止されるが、次年度以降も卒業生への支援を継続していくことが望まれる。
- ・学園祭に大勢の卒業生が訪れていることは特筆に値する。学生及び卒業生への支援の成果と思われ高く評価したい。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1					
進路・就職に関する支援体制は整備されているか		④	3	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか		④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか		④	3	2	1	
課外活動(ボランティア等)に対する支援体制は整備されているか		④	3	2	1	
学生の生活環境への支援は行われているか		④	3	2	1	
保護者と適切に連携しているか		④	3	2	1	
卒業生への支援体制はあるか		④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか		④	3	2	1	
関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか等		④	3	2	1	

① 現状

- a 急務である介護福祉士及び保育者の養成については、国、県、各種団体等による修学支援制度が多数整備されていることから、奨学金を必要とする学生に対しては、各種支援制度を紹介し、その申請手続きなどの支援を行っている。また、PAZ グループ独自の奨学金「PAZ 奨学金(高校 3 年生申し込み限定)」と「PAZ 奨学支援金(在校生向け)」(他制度との併用可・返済免除あり)が整備されており、介護福祉学科の在校生にも支援を行っている。なお、「高等教育修学支援新制度」の対象校に認定されている。
- b PAZ 祭(学園祭)は、卒業生や在校生の保護者をはじめ地域住民等 495 名の方が来場し、最高人数を更新した。外部への周知は、チラシの配布や SNS を活用し、特に卒業生へは LINE による一斉呼びかけを行った。その結果、多数の卒業生が来校し、情報交換の場として機能することに成功している。飲食については、昨年同様キッチンカーを誘致し、学生には一人 1200 円(昨年是一人 1000 円)の金券を同窓会より配付し、好評を得ている。飲食を外部に任せたことで、学生は学修成果の発表に専念できていた。また、今回初めての試みで PAZ グループの協力を仰ぎ、福祉に関する相談ブース「なんでも福祉相談」等を実施し、地域貢献に資することができた。昨年度からの課題であった駐車場の整備については、駐車場を 3 カ所に増やし、案内板の設置やシルバ

一人材センターに誘導を依頼したことで、混雑を避けることができた。

- c 2020 年 3 月 26 日付けで関東信越厚生局長から国民年金の「学生納付特例法人」の指定を受け、学生の国民年金の申請等に対応している。また、渋川年金事務所の職員が複数回来校し、学生に年金制度の説明の他、マイナンバーとねんきんネットとの連携補助をしていただくなど、学校と年金事務所の間で連携をとっている。
- d 介護福祉学科では、卒業生支援として、資格の登録手続きの確認(新卒の方・5 年経過措置対象の方)や在留資格「介護」への変更確認(新卒の留学生)を、本人と勤務先の施設に対して実施した。また、本校で開講している実習指導者講習会では、卒業生割引を導入しており、卒業後にスキルアップをしやすい環境を整えている。
- e 2020 年 4 月より学生寮「Paz Dormitory Shibukawa」を学校に近接する場所に設置している。10 部屋でバス・トイレ・キッチン・冷暖房完備の設備で、学生の利便性向上に寄与している。今年度は、寮生にとって住みやすく、衛生面で安心して生活が送れるように、害虫対策や除草剤の散布を行った。
- f 主に、県外から本校に入学する学生の居住場所確保(渋川駅周辺)のため、市内の不動産業者数社と密に連絡をとり、物件紹介のサポートを行っている。

② 課題と改善方策

- a PAZ 祭(学園祭)については、保護者面談を導入しており、保護者との連携の機会を設けているが、今年度は保護者面談の希望がなく実施することができなかった。当日も飛び込みの面談に対応できるように準備をしていたが、希望者はいなかった。しかし、保護者との連携を図るべく、今後も引き続き保護者面談の声掛けを行ってきたい。また、次年度は介護福祉学科のみでの実施となるため、実施内容を検討していく必要がある。
- b 次年度は保育学科の在学学生はいないが、卒業生及び就職先への対応については引き続きできる範囲で行っていく。

③ 学校関係者評価委員会による評価

・学生が不安なく学生生活を送れるよう健康管理をはじめ、奨学金制度紹介やフードドライブの実施等経済的支援、各種手続きの指導など多様な支援を行っている。今後も学生のニーズに合わせた支援を継続してほしい。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 教職員の退職・採用等に伴う新年度の「防災体制」を確認すると共に、6 月に渋川市消防本部の指導の下、学生及び教職員を対象とした防災訓練を実施した。
- b 11 月に渋川市消防本部の協力を得て、「地震体験車」等を使った災害対処訓練を実施した。特に、あまり地震

が発生しない国からの留学生もいることから、極めて意義のある訓練になっている。

- c 学校と実習施設との関係は良好で、学生の指導に関する連携も図られている。また、介護福祉学科希望者のインターンシップについては、PAZ グループ内の病院、施設で複数回実施している。
- d 「自然災害発生時における業務継続計画 (BCP)」を策定し、運用を開始した。次年度以降毎年見直しを行い活用していく。
- e 教室 2 つを活用し、卓球などでリフレッシュしたり、トレーニングマシンで運動したりできるように環境整備を行っている。

② 課題と改善方策

- a 「自然災害発生時における業務継続計画 (BCP)」に基づいて棚等の転倒防止対策を行い、災害備蓄品を備えていく予定である。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・既存のトレーニング用ジムコーナーのほか、学生の要望により空き教室を開放し卓球台を設置するなど、学生生活の充実を図れるよう環境整備を行っている。今後も学生の意見を取り入れながら環境の改善に取り組んでほしい。
- ・BCP については、毎年見直しが必要であろう。

(7) 学生の受入募集

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1					
学生募集活動は、適正に行われているか		④	3	2	1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		④	3	2	1	
学納金は妥当なものとなっているか		④	3	2	1	

① 現状

- a 評価項目について、本年度も適切に行えている。
- b 今年度入学試験は、AO 入試 4 回、通常入試 6 回、留学生来校型入試 5 回、留学生オンライン型入試 3 回、委託訓練生募集を実施し、出願者 97 名、合格者 58 名、入学者 53 名 (内留学生 39 名・委託訓練生 4 名) となった。
- c 今年度は 9 回のオープンキャンパスを実施し、その参加者は、延べ 77 人であった。また、在校生とオープンキャンパス参加者との関わりを増やすことや、プログラム内容等に変化をつけることで、繰り返し参加してくださっている方にも配慮した内容とすることができた。 昨年度から COVID-19 が 5 類へ移行したことで留学生の参加者が増加しており、留学生の参加者は計 48 名 (うち、県外からの参加者 7 名) となり、昨年比 33 名増加した。
- d 各種広報媒体 (インターネット、新聞広告) を活用した広報・募集活動を積極的に実施している。
- e 本年度、専門学校単独での公開講座を 2 月に実施した。多くの参加者に来ていただけたことで、地域貢献はも

とより、学校を知っていただく広報活動の一環にもなった。過去に参加しているリピーターの参加者も年々増加している。

- f 学校広報、地域貢献、福祉の啓蒙などを目的に、小、中、高校や社会人を対象に、本校教員が各学校へ出張し授業を行っている。これらの活動をさらに多くの学校等で活用していただけるよう本校校長が渋川市小中学校校長会議において事業の紹介を行うとともに、渋川周辺地域～北毛地域の教育委員会を訪問し周知した。また、本年度 12 月から名称を「オープンレクチャー」から「介護出前授業」に変更し、より依頼がしやすくなるよう、授業内容も専門的な内容から一般的にイメージのできるような内容にした。その結果、周知直後に小学校 1 件の依頼があり、好評であった。
- g 群馬パース大学の学園祭(流星祭)において専門学校の説明ブースを設置した。
- h 本年度も「ベスト介護Japan」への在校生の挑戦を通して、本校のPRを行うことができた。
- i 2019 年まで実施していた高等学校教員向けの説明会を 5 年ぶりに実施した。3 校 3 名の参加があり、本校の教育方針や環境を知っていただくだけでなく、本校に在籍している該当高校卒業生との交流の機会となった。
- j 定期的に実施している高校訪問では、現役入学生が本校での学校生活の様子を母校に伝える「卒業生だより」と、本校を無事に卒業し就職したことを報告する「就職報告だより」を作成し、配布した。
- k 入学試験について、留学生の増加に伴い今年度から新たに「留学生入試」を設定し、区分・日程・受験方法を日本人とは別枠化した。AO 入試や推薦入試の取扱いなど、これまで留学生や日本語学校にとって煩雑だった部分を整理したことで、入試の選択基準や出願書類が分かりやすく簡潔になった。
- l オープンキャンパスの日程について、例年主に土曜開催としていたが、より多くの参加者増加を目的とし、昨年度より夏季休暇中の平日開催日を設けている。また、体験授業を通して在校生と教員が共に授業を創り上げていく様子を伝えたり、在校生とオープンキャンパス参加者との交流や意見交換の場を増やす工夫を行ったりすることで、本校の雰囲気や在校生の声を直に伝えることができる機会を作っている。留学生に対しては、来校が難しい県外在住者に対する随時開催のオンラインガイダンスについて今年度も引き続き開催し、好評を得ている。
- m 毎年春に発行している「学校案内」について、昨年度から引き続き職種理解にクローズアップしたリーフレット形式で作成している。また、新たに留学生入試を設定したことに伴い、募集要項を日本人とは別途作成した。
- n 委託訓練公募開始と共に、群馬県全域のハローワークや北毛地域の入居系施設を訪問し、広報活動を行った。近隣のハローワークが開催する委託訓練校説明会に参加し、さらには委託訓練について幅広く知ってもらえるよう高崎イオン掲示板等、掲載媒体を増やすなどして広報に力を入れている。ハローワーク訪問時には、委託訓練生の意見などを掲載したチラシを持参し、学校生活や委託訓練制度を使用した際のイメージができるようにした。また、昨年度から位置情報を活用した Web 広告を配信することで、より広告効果の高い層(ハローワーク訪問者且つ AI 計測による年齢層別 Web 閲覧者)への周知を図っている。
- o 新入生に対し、本校に入学を決めた理由や、入学して実感したことなどについてアンケート調査を実施した。その結果についてオープンキャンパスやガイダンスなどで紹介し、高校生の進路検討の情報とした。

② 課題と改善方策

少子化の影響だけではなく、介護福祉士を進路として選択する現役入学者・社会人入学者が年々減少傾向にある。多くの介護福祉士養成校が定員に満たない状況の中で、少ない福祉系進学希望者を獲得するために高校生に進学先として選ばれる魅力ある学校を目指す必要があるが、それだけではなく、社会として介護職への

興味・理解及び重要性の認識を高めることが重要と考える。高校生のみならず、社会人、外国人留学生、委託訓練生の募集方法なども工夫し、次のような改善策で募集に臨みたい。

- a 高校訪問を足繁く実施し、またオープンキャンパス案内チラシや本校 HP などを活用して効果的に本校のことを知っていただけるように工夫していく。また、高校教員の方にも介護職への理解を更に深めていただけるよう、接触する機会には学校案内等を活用し介護職の魅力等を発信し伝える。本校教員がガイダンスを担当する等、高校生と本校教員の接触する機会も増やし、継続して全体で協力、調整を行う。
- b 入学後、新1年生を対象に入学を決めたきっかけなどの意識調査(アンケート)を継続し、今後の学生募集、広報活動の参考としていく。
- c 学校生活や授業風景がイメージできるような動画を作成し、オープンキャンパスの受付後から開始までの待ち時間に上映し、入学後の自分をイメージできるようにする。また、PAZ グループの職場紹介も併せて上映し、学校理解や職場理解などの機会も作る。
- d 学生募集における広報活動は多岐にわたるため、年間スケジュールを立て、月に一回入試広報担当者会議を開催し、動きの確認や情報の共有などを継続して行う。
- e ホームページ、学校案内等の各種募集媒体について、外国人留学生にも配慮し、留学生が知りたい情報に特化したものを作成する。
- f 委託訓練生募集期間には、既に介護職に理解のある介護施設職員にも直接広報し、無資格職員や家族、知人等へ介護職及び職業訓練制度の魅力を広く周知していただく。
- g 進路に「介護」を選択する学生の母数が減っていることから、高校生だけを募集活動の対象にするのではなく、出前授業等を通して、小・中学生及び進路選択の指導をする教員・保護者からも介護・福祉への興味・理解を得る機会を作り、将来的に介護福祉士を選択する人材を増やせるよう長期的な活動も実施していく。
- h 高校 1、2 年生向けに、本校の PR だけではなく、職業理解に繋がるオープンキャンパスの開催を検討していく。

③ 学校関係者評価委員会による評価

・従来の広報活動にとらわれず、新しい取り組みを取り入れながら学生募集を行っている点が評価できる。特に留学生をはじめ多様な立場の学生の受け入れを行っていることは、社会のニーズに沿ったものと言えよう。留学生に向けては、オンライン入試を設け、広く広報活動を行っている。今後は、日本人学生の獲得も視野に入れた募集活動を展開していただきたい。

(8) 財務

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 法人全体(大学、大学院、専門学校)の収容定員充足率が各年度 100%超で安定的に推移する中で、学生生徒等納付金が充分に確保されており、経常収支差額比率をはじめとする各種の財務比率も概ね良好で、財務基盤は安定している。
- b 予算の編成については、各部局毎(法人、大学、大学院、専門学校)に策定される次年度方針に基づき予算案が組まれ、3 月開催の理事会・評議員会にて承認を受けている。また実際の予算執行時には起案書を作成・回覧し、改めて使用内容等の詳細について確認・検討を行うこととしている。さらに半期実績等に基づく補正予算を適宜編成している。
- c 本法人の会計監査については、公認会計士による外部監査^{※1}、及び監事による学内監査^{※2}、から成っている。
- ※1 公認会計士による外部監査…加藤会計事務所による期中監査及び決算監査を受けている。監査契約書に定められている監査従事者の監査見積時間数は①監査責任者 30 時間、②公認会計士 80 時間、③その他 80 時間…合計 190 時間となっている。
- ※2 監事による学内監査…「学校法人群馬パース大学 監事監査規程」に基づき作成された監査計画に沿った監査が行われている。2 名の監事は理事会及び評議員会への出席に加え、学校法人の管理運営を適正に行うため、理事会と教学間の意志疎通を図ることを目的として毎月 1 回開催される法人運営会議にも出席しており、学校法人の業務全般を状況把握した上で、期中・期末には決算等概要について、財務部及び公認会計士より概況聴取及び意見交換を実施している。また、今年度より法人に設置された内部監査室と監事・公認会計士との連携を図り、監査機能の充実を図っている。
- d 本法人の情報公開については、「学校法人群馬パース大学 情報公開規程」に則り、毎年度決算終了後、財務情報(財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書)及び監事による監査報告書をホームページ上に掲載するとともに、各事業所へ備え置き一般の閲覧に供している。

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・学校法人の財務状況については、引き続き良好と認められる。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 毎年、自己点検評価については、全教職員が分担して取り組んでいる。そして、評価項目ごとに成果や課題を検討し、次の課題を明確にするなど学校全体の質的向上への反映に努めている。
なお、6月に、学校のホームページを通じて2023年度「自己評価報告書」及び「学校関係者評価報告書」を公表した。
- b 学生及び教職員の個人情報に関する情報漏えい事故等は発生していないが、引き続き「個人情報保護に関する規程」等に則り、その適正管理に努めている。
- c 2020年度から、非常勤講師に対して個人情報(特に学生に関する個人情報)の漏洩防止の徹底を図るため誓約書の提出を求めることとしているが、今年度も継続実施した。
- d 留学生の管理については、令和6年における教育機関の選定結果についても東京出入局在留管理局から最上位の「適正校(クラスⅠ)」に選定された。(6年連続「適正校」)

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。引き続き法令等の遵守に努める。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・留学生に対して適切な指導が行われている。その結果、東京出入国在留管理局から6年連続で「適正校(クラスⅠ)」に選定されていることは高く評価できる。引き続き適正な管理と指導に努められたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 春季～秋季の毎月末、学校行事として実施している環境美化活動では、学校敷地内の清掃のみならず、学校周辺道路等の清掃も行っている。
- b 介護福祉学科では、福祉系高等学校の授業内で開講される介護職員初任者研修や介護施設での職場内研修へ、本校教員を講師として派遣している。
- c (学外の)介護従事者向けスキルアップ研修(喀痰吸引等研修、実習指導者研修)や介護福祉士になるための基礎的な知識・技術を学ぶ研修(実務者研修)を開講している。
- d 保育学科では、群馬県教育委員会・幼児教育センター事業の『保育アドバイザー』に委嘱された本校教員が、幼児教育に携わる方を対象とした各種研修会等に講師として派遣されている。また『幼稚園等新規採用教育研修指導員』に委嘱された本校教員が、直接園に赴いて指導に当たっている。
- e 本校に届くボランティア募集等の情報は担当者が随時受け付けし、学生が自由に閲覧・申し込みできるよう掲示板への貼付と就職相談室への配架を実施している。また実習・就職実績がある施設等からの案件については、必要に応じて教員より学生へ個別に声掛けも行っている。
- f PAZ 祭では来場者サービスとして、わたあめ・ポップコーンの無料配布を行った。その材料の余りとフリーマーケットの収益の一部を活用して、12月25日に2名の教員により「フードバンクしづかわ」主催の「こども食堂」にて、地域貢献活動を行った。わたあめとポップコーンを現地で作り、20名の子どもに配布し交流した。
- g 本校主催の来場型公開講座「生涯健康であるためにーライフステージごとの食生活を考えるー」を2月に開催した。講師に管理栄養士の飯塚由美氏を招き、講演を行った。
- h 本校が有する人的教育資源の地域還元を目的とし、設置分野である『保育』『介護』の専門知識を生かした個性ある Open Lecture(出前講座)を実施している。※受講料無料(「(7) 学生の受入募集」参照)
- i 群馬県の公共職業訓練(ハロートレーニング)受託校として、①介護福祉士コースおよび介護福祉士養成科 ②保育士コースを開講し、今年度は①介護福祉士養成科にて4名の訓練生を受け入れている。
- j 介護福祉職の仕事のやりがい発信しイメージ向上を図るため、日本介護福祉魅力研究協会が介護の日(11月11日)に合わせて開催した「第3回ベスト介護 JAPAN・学生の部」にて、本校の学生が出場し一昨年、昨年に引き続き優勝している。

*本校の教職員および学生による、その他の社会貢献・地域貢献については、別添資料3「2024年度 主な地域貢献活動一覧」を参照のこと。

② 課題と改善方策

引き続き積極的に社会貢献・地域貢献活動に取り組んでいきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・地域連携事業の一環として、今年度も多くの本校教職員が研修会や出前講座等の講師として派遣されており、好評を博していることは特筆に値する。
- ・公開講座では、地域の方々をはじめ大勢の来場者があり好評だったとのこと。今後も本校の特性を活かした講座を開催し、地域に貢献してほしい。
- ・渋川市をはじめとした地域との連携の核となる教育機関として存在感を発揮してほしい。今後とも地域とのつながりを重視した意欲的な活動を展開していくことが求められるだろう。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1					
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか		④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか		④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか		④	3	2	1	

① 現状

- 昨年度に引き続き、留学生確保のために広報活動を積極的に行っている。具体的には、県内の日本語学校での校内ガイダンス及び会場型ガイダンスに参加し、計 103 名の留学生に本校のアピールを行った。その結果、以前はオープンキャンパスに参加する県内留学生は秋以降に活動が活発化する傾向だったが、初回から多数の参加者があり、随時実施している個別見学の参加者も含め、昨年度に比べ 38 名の増加となった。県外に在住している受験希望者に対しては、昨年度から引き続き依頼に随時対応している。その結果、県外の留学生および就労資格等(特定技能ほか)を持つ外国人に向けて、オンライン説明会を 37 回実施し、参加者は合計 31 校 68 名に及んだ。説明会では本校の学習内容や奨学金について理解を深めていただけるように配慮した。また、例年に比べ学校に在籍している留学生だけではなく、国家試験の合格困難等を理由に進学での資格取得に進路変更を希望する「特定技能」等の就労資格を持った外国人受験希望者が増加傾向にある。そのため日本語学校だけではなく介護施設等への受験案内も随時実施した。
- 昨年度に引き続き受験申込者は多く、留学生出願者は 82 名に上る。その結果、日本語能力だけでなく、日本語学校での出席率、人物、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断した入試選考を行い、46 名の合格者を出した。日本語能力が著しく欠けている学生や、介護について興味のない学生は不合格とする選考を行い、一定レベルの学生の確保に繋げている。
- 本校の学生紹介制度が浸透しており、学生を通した紹介が定着している。本年度は本校の学生や卒業生 16 名から紹介があり、その結果、留学生は 35 名の出願があった(うち、合格者は 17 名)。
- 日本年金機構(厚生労働省関東信越厚生局)と「学生納付特例申請」の代行事務契約を結び、留学生の年金

手続きを一括で行っている。そのため、渋川年金事務所を訪問し、年金事務所職員と担当教員で面談確認を実施し、学生の年金手続きに漏れがないように留意している。

- e 専門家(弁護士、行政書士など)に相談できる「ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター」を紹介している。
- f 日本語学校に『学生納付特例事務法人の指定』の検討を依頼する文書に、本校の名前と写真が掲載されている。
- g SDGs のフードロス・貧困対策の点から、「フードバンクしぶかわ」や教職員、協力者から食料品や衣料品・生活雑貨を一括預かり、留学生や生活に困窮している学生へ定期的に配付している。
- h 東京入国管理局から令和5年教育機関の選定結果について「適正校(クラスⅠ)」として認定された。その結果、留学生の在留更新が以前より簡易となっている。
- i 留学生の在留資格に関し、「申請等取次者」の資格を東京入国管理局より取得している。在留資格の更新・変更時の取り次ぎの他、入学時・卒業時、5月と11月の届け出、退学者が出た場合は随時、その他、年1回の定期報告を実施している。在留資格の資格喪失に関しては学生へ注意喚起しつつ細心の注意を払い、支援を行っている。
- j 留学生の語学力については個人差が大きい。基本的な日本語を習得済みで日本語学校を卒業しているはずだが、それが不十分な学生も多く在籍しているのが現状である。日本語指導として、JLPT の試験対策を放課後に実施したが、参加者が2人から8人と少なかった。日本語能力の高い学生が参加する傾向にあり、日本語力を強化する必要がある学生ほど参加しなかった。そういった学生に声掛けを強くしても効果はなく、次年度は、自由参加ではなく授業に取り入れる等の強制力が必要と思われる。

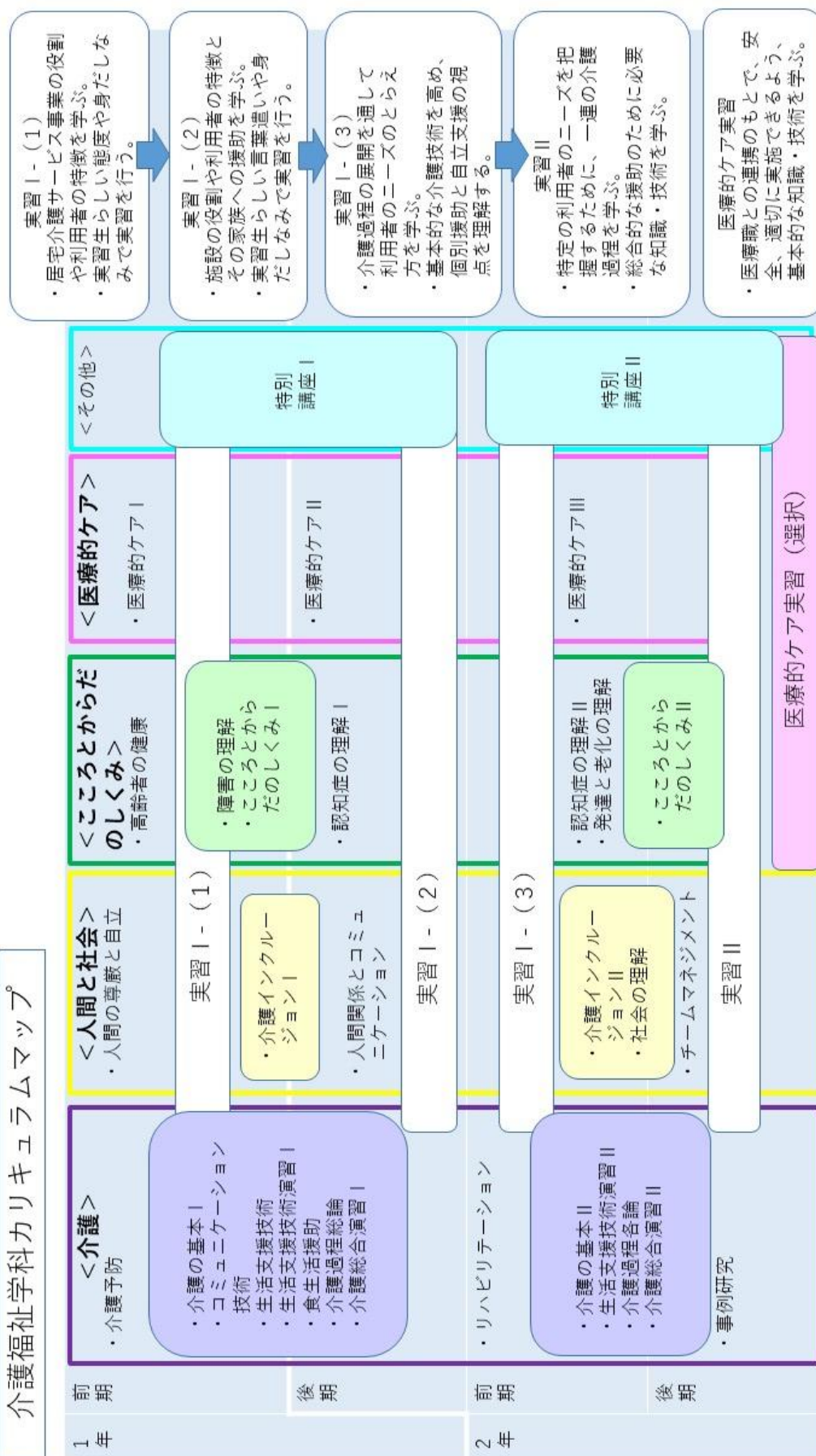
② 課題と改善方策

- a 留学生は、日本語学校を卒業後本校に入学しているが、語学力で個人差があることや専門用語について理解が十分でない学生もいる。留学生の日本語能力向上については常の課題である。専任教員を中心にサポートしているが、十分とはいえず、学校全体で取り組む必要がある。
- b 優秀な人材を確保し、育成していくことで群馬県全体の介護業界に貢献していくことが本校の使命である。そのため入学試験において、本人の日本語能力や「学ぶ」意識を見極めて選考していく必要があり、また入学後は日本語能力のみならず、日本における職業人に求められる生活態度等についても指導を行っていききたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・留学生の受け入れを積極的に行っている。また、教職員が連携を取りながら、受け入れ後の留学生の生活の保障及び指導を行っている。引き続き留学生の日本語能力、生活態度等の向上に向けての指導に努められたい。

介護福祉学科カリキュラムマップ



保育学科カリキュラムマップ

	小田原短期大学		保育の本質・目的に関する科目	保育の対象理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	総合演習	教養科目	その他	実習指導		実習	
	小田短	PAZとの必修							PAZ	小田短	PAZ	小田短
1 年	前期	健康 人間関係 表現(音楽) 教育制度論	保育原理 社会福祉 社会的養護 I	保育の心理学 子どもの保健	保育の内容・健康 保育内容人間関係 音楽表現と遊び I 言語表現と遊び 乳児保育 I 子どもの健康と安全 障がい児保育 I 保育のためのピア/演習 I		保育の英語 I		保育実習指導 I (施設)		保育実習指導 I (保育所)	
	通年	環境 情報処理論			保育内容健康 身体表現と遊び 保育・子育て支援演習 I 実践演習自然と食 I			特別講座 I	保育実習指導			
	後期	言葉 音楽表現 II 造形表現 II 身体表現 II 表現(造形) 特別支援教育・保育概論 教育の方法と技術 おだたん人間成長講座	教育原理 子ども家庭福祉 保育者論	子どもの理解と援助	保育内容言葉 保育内容表現 造形表現と遊び II 音楽表現と遊び II 保育教材研究 I 保育のためのピア/演習 II		保育の英語 II 保育キャリアデザイン I 日本国憲法				保育実習 I (保育所) 保育実習 I (施設)	教育実習
2 年	前期	幼児理解の理論と方法 教育相談		子どもの食と栄養 I 実践演習こどもの医療 I	保育の計画と評価 保育内容総論 乳児保育 II 社会的養護 II 保育教材研究 II 保育のためのピア/演習 II		体育講義 メディア社会と子育て 保育キャリアデザイン II		保育実習指導 II		保育実習指導 II	保育実習 II 保育実習 III
	通年				保育・子育て支援演習 II 実践演習自然と食 II 障がい児保育 II 子育て支援 保育のためのピア/演習 IV	保育実践演習		特別講座 II				保育実習 (後期)
	後期		子ども家庭支援論 保育概論実践演習(必修)	子ども家庭支援論 子育て支援 表現指導法 人間関係指導法					保育実習指導			

2024年度地域連携事業一覧

資料 3

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	事業名	役割	対象・人数	連携先	実施場所	備考
1	保育学科	剣持佐智子	5月8日	月	幼稚園等新規採用研修園内研修指導員連絡会	指導員研修	指導員8名・職員4名	群馬県総合教育センター	群馬県総合教育センター	
2	保育学科	鵜飼侑起子	5月11日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
3		都丸千寿子	5月17日	金	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
4	保育学科	井上 暁子	5月20日	月	西毛保育連絡会研修会	講師派遣	西毛地区保育施設に勤務する保育者50名	西毛保育連絡会	高崎市総合福祉センター	
5		都丸千寿子	5月21日	火	北橘地区学校運営協議会	橘小学校運営協議会委員	地区運営協議会委員25名	渋川市立北橘中学校	渋川市立北橘中学校	
6		都丸千寿子	5月24日	金	群馬県幼稚園等新規採用教員研修	講師派遣	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員140人	群馬県総合教育センター	群馬県総合教育センター	
7		都丸千寿子	5月29日	水	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
8	保育学科	剣持佐智子	5月30日	火	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
9	保育学科	小林由井子	6月3日	月	渋川市子ども・子育て会議	子育て委員	委員と職員28名	育都推進部 子ども政策推進係	渋川市役所	
10		都丸千寿子	6月14日	金	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
11	介護福祉学科	高草木めぐ美	6月14日	金	介護職員初任者研修	講師派遣	受講者3年生11名	渋川青翠高校	渋川青翠高校	
12	保育学科	鵜飼侑起子	6月15日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
13	保育学科	小林由井子	6月21日	金	渋川市こもち幼稚園評議委員会	評議員	評議員・職員6名	渋川市立こもち幼稚園	渋川市立こもち幼稚園	
14	保育学科	鵜飼侑起子	6月22日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	

2024年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	事業名	役割	対象・人数	連携先	実施場所	備考
15	保育学科	剣持佐智子	6月25日	木	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
16		都丸千寿子	6月26日	水	北橋幼稚園評議員会・学校運営協議会	評議員	評議員・職員7名	渋川市立北橋幼稚園	渋川市立北橋幼稚園	
17		都丸千寿子	6月27日	木	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当 2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
18	保育学科	鵜飼侑起子	6月29日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
19	介護福祉学科	古川 太基	7月9日	火	ステップアップ研修「介護スキル指導者研修」	講師派遣	施設職員13名	社福 ほたか会 介護研修センター	社福 ほたか会 介護研修センター	
20	保育学科	剣持佐智子	7月9日	火	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
21	保育学科	鵜飼侑起子	7月13日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
22	保育学科	鵜飼侑起子	7月16日	火	高崎市立京ヶ島小学校合唱部(音楽集会)	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
23	保育学科	剣持佐智子	7月24日	水	幼稚園等新規採用研修園内研修指導員連絡会	指導員研修	指導員8名・職員4名	群馬県総合教育センター	群馬県総合教育センター	
24		都丸千寿子	7月26日	金	高崎市立幼稚園幼児教育研究会	講師派遣	高崎市立幼稚園関係者37名	高崎市立吉井幼稚園	高崎市教育センター	
25	保育学科	鵜飼侑起子	7月27日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
26	介護福祉学科	魚屋真佐江	8月1日	木	群馬県キャリア形成訪問指導事業	講師派遣	はなみずき職員	はなみずき榛東	はなみずき榛東	
27	保育学科	鵜飼侑起子	8月3日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市市民活動センター・ソシアス	
28	保育学科	鵜飼侑起子	8月7日	水	TBSこども音楽コンクール前橋地区大会	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	ベイシア文化ホール	
29	保育学科	塩澤 恵美	8月7日	水	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	講師派遣	群馬県保育施設に勤務する職員100名	群馬県社会福祉協議会	群馬県市町村会館	

2024年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	事業名	役割	対象・人数	連携先	実施場所	備考
30	保育学科	井上 暁子	8月7日	水	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	講師派遣	群馬県保育施設に勤務する職員100名	群馬県社会福祉協議会	群馬県市町村会館	
31	保育学科	鵜飼侑起子	8月9日	金	NHK全国学校音楽コンクール2024群馬県大会	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	昌賢学園まえばしホール	
32	介護福祉学科	魚屋真佐江	8月26日	月	群馬県キャリア形成訪問指導事業	講師派遣	はーとわーく職員	はーとわーく	はーとわーく	
33	保育学科	小林由井子	8月28日	水	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	講師派遣	群馬県保育施設に勤務する職員100名	群馬県社会福祉協議会	群馬県市町村会館	
34	保育学科	剣持佐智子	8月28日	水	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	講師派遣	群馬県保育施設に勤務する職員100名	群馬県社会福祉協議会	群馬県市町村会館	
35	保育学科	小林由井子	8月29日	木	渋川市子ども・子育て会議	子育て会議	役員と職員28名	育都推進部 子ども政策推進係	渋川市役所	
36	保育学科	剣持佐智子	8月29日	木	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
37	保育学科	剣持佐智子	9月12日	木	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
38		都丸千寿子	9月18日	水	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当 2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
39		都丸千寿子	9月20日	金	新入学保護者講演会	講師派遣	昭和村立大河原小学校保護者9名	昭和村立大河原小学校	昭和村立大河原小学校	
40		都丸千寿子	9月24日	火	社福ほたか会事例発表会	コメンテーター	介護施設10施設	社福 ほたか会 介護研修センター	群馬県社会福祉総合センター	
41		都丸千寿子	9月25日	水	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当 2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
42		都丸千寿子	10月1日	火	新入学保護者講演会	講師派遣	みなかみ町立新治小学校保護者30名	みなかみ町教育委員会	みなかみ町立新治小学校	
43		都丸千寿子	10月17日	木	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当 2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
44	保育学科	剣持佐智子	10月17日	木	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	

2024年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	事業名	役割	対象・人数	連携先	実施場所	備考
45		都丸千寿子	10月21日	木	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当 2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
46		都丸千寿子	10月24日	月	新入学保護者講演会	講師派遣	前橋市立敷島小学校 保護者42名	前橋市立敷島小学校	前橋市立敷島小学校	
47	保育学科	小林由井子	10月28日	月	渋川市子ども・子育て会議	子育て会議	役員と職員28名	育都推進部 子ども政策推進係	渋川市役所	
48		都丸千寿子	10月29日	火	前橋市幼保小地区ブロック研修会	講師派遣	若宮・細井地区幼保小連携担当者、幼児教育センター職員	前橋市幼児教育センター	第二はと保育園	
49		都丸千寿子	11月6日	水	新入学保護者講演会	講師派遣	前橋市立岩神小学校 保護者55名	前橋市立岩神小学校	前橋市立岩神小学校	
50	介護福祉学科	黛・魚屋・戸丸	11月7日	木	介護出張教室	講師派遣	岩島小学校4年生・6名	介護協 岩島小学校	岩島小学校	
51	介護福祉学科	深澤みはる	11月8日	金	渋川青翠高校初任者研修	講師派遣	学生11名	渋川青翠高校	渋川青翠高校	
52		都丸千寿子	11月9日	土	群馬大学共同教育学部附属幼稚園公開研究会	指導助言	公開研参加者141名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
53	保育学科	剣持佐智子	11月14日	月	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
54		都丸千寿子	11月21日	火	北橋幼稚園評議員会・学校運営協議会	評議員	評議員・職員7名	渋川市立北橋幼稚園	渋川市立北橋幼稚園	
55	介護福祉学科	古川太基	11月21日	木	ステップアップ研修「介護スキル指導者研修」	講師派遣	施設職員5名	社福 ほたか会 介護研修センター	社福 ほたか会 介護研修センター	
56	介護福祉学科	深澤みはる	11月22日	金	渋川青翠高校初任者研修	講師派遣	学生11名	渋川青翠高校	渋川青翠高校	
57		都丸千寿子	11月26日	火	前橋市幼保小地区ブロック研修会	講師派遣	大胡地区幼保小連携担当、幼児教育センター職員11名	前橋市幼児教育センター	前橋市立おおご幼稚園	
58		都丸千寿子	12月3日	火	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当 2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
59	保育学科	小林由井子	12月5日	木	こもち幼稚園評議員会	評議員	評議員・職員4名	こもち幼稚園	こもち幼稚園	

2024年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	事業名	役割	対象・人数	連携先	実施場所	備考
60	介護福祉学科	深澤みはる	12月5日	木	渋川青翠高校初任者研修	講師派遣	学生11名	渋川青翠高校	渋川青翠高校	
61		都丸千寿子	12月6日	金	前橋市幼保小地区ブロック研修会	講師派遣	上川淵地区幼保小連携担当、幼児教育センター職員18名	前橋市幼児教育センター	前橋市立おおご幼稚園	
62	保育学科	剣持佐智子	12月10日	火	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
63	介護福祉学科	深澤みはる	1月10日	金	渋川青翠高校初任者研修 認知症サポーター講習会	講師派遣	学生11名	渋川青翠高校	渋川青翠高校	
64		都丸千寿子	12月13日	金	北橋地区学校運営協議会	橋小学校運営協議会委員	北橋中 学生16名と面接	渋川市立北橋中学校	渋川市立北橋中学校	
65		都丸千寿子	12月20日	金	北橋地区学校運営協議会	橋小学校運営協議会委員	北橋中 学生13名と面接	渋川市立北橋中学校	渋川市立北橋中学校	
66	保育学科	鵜飼侑起子	1月18日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
67	保育学科	剣持佐智子	1月28日	火	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
68	保育学科	小林由井子	1月30日	木	渋川市子ども・子育て会議	子育て会議	役員・職員28名	育都推進部 子ども政策推進係	渋川市役所	
69	保育学科	鵜飼侑起子	2月1日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市立京ヶ島小学校	
70		都丸千寿子	2月4日	火	北橋幼稚園評議員会・学校運営協議会	評議員	評議員・職員7名	渋川市立北橋幼稚園	渋川市立北橋幼稚園	
71		都丸千寿子	2月5日	水	群馬県幼稚園等中堅教員資質向上研修	講師派遣	群馬県幼稚園・こども園等の中堅教員 9人	群馬県総合教育センター	群馬県総合教育センター	
72		都丸千寿子	2月7日	金	北橋地区学校運営協議会	橋小学校運営協議会委員	地区運営協議会委員 25名	渋川市立北橋中学校	北橋公民館	
73	保育学科	鵜飼侑起子	2月8日	土	高崎市立京ヶ島小学校合唱部 ウィンターコンサート	講師派遣	合唱部児童30名・教員2名	高崎市立京ヶ島小学校	高崎市市民活動センター・ソシアス	
74	保育学科	小林由井子	2月14日	金	こもち幼稚園評議員会	評議員	評議員4名・職員2名	こもち幼稚園	こもち幼稚園	

2024年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	事業名	役割	対象・人数	連携先	実施場所	備考
75	保育学科	剣持佐智子	2月20日	木	幼稚園等新規採用研修園内研修	こども園新規採用教員指導	こども園新規採用教員 1名	群馬県総合教育センター	応桑こども園	
76	介護福祉学科	黛・魚屋・戸丸	2月20日	木	出前授業	講師派遣	渋川市立長尾小学校 4年生50名	渋川市立長尾小学校	渋川市立長尾小学校	
77		都丸千寿子	2月27日	木	群馬大学共同教育学部附属幼稚園研修支援	アドバイザー	附属幼稚園年少担当 2名	群大附属幼稚園	群大附属幼稚園	
78	保育学科	剣持佐智子	3月5日	月	幼稚園等新規採用研修園内研修指導員連絡会	指導員研修	指導員8名・職員4名	群馬県総合教育センター	群馬県総合教育センター	
79		都丸千寿子	3月12日	水	前橋市幼児教育アドバイザー会議	保育アドバイザー	市教委担当者・幼児教育アドバイザー 15名	前橋市幼児教育センター	前橋市教育プラザ	
80	介護福祉学科	古川太基	3月14日	金	ステップアップ研修「介護スキル指導者研修」	講師派遣	施設職員6名	社福 ほたか会 介護研修センター	社福 ほたか会 介護研修センター	
81	介護福祉学科	古川太基	3月18日	火	介護技術コンテスト解説者	講師派遣	たくみ・ベルジ・ほたか会グループ	社福 ほたか会 介護研修センター	社福 ほたか会 介護研修センター	
82	保育学科	小林由井子	3月21日	金	こもち幼稚園評議員会卒園式	評議員	評議員4名・他	こもち幼稚園	こもち幼稚園	
83		都丸千寿子	3月21日	金	北橘幼稚園評議員会卒園式	評議員	評議員4名・他	北橘幼稚園	北橘幼稚園	